

ストーリー系作品 with コロナに向けた制作ガイドライン

1. 基本方針

■with コロナに向けての取組み

新型コロナに対する国および東京都の対応が大きく変わりつつあります。

3月13日～ マスク着用が基本的に個人の判断に。

5月8日～ 新型コロナウィルスの感染法上の分類が5類に移行。

これにともない、これまでの制作ガイドラインを段階的に改訂します。

ここに記載するのは3月13日～5月7日(5類移行前)までのガイドラインです。

それ以降に関しては追ってお知らせします。

■改定のポイント

① 今回の改定は「マスク着用」に関してです。同時に距離・アクリル板の設置基準も一部見直しています。一方で、「コロナ対策責任者制度」などは5月7日までは現行ルールのまま据え置くこととします。

② 「濃厚接触者制度」はまだ残っています。

・陽性者と同居家族 ・マスク無し・2mの距離で陽性者と15分以上の会話があった人
上記に当てはまる人は、最短5日間の自宅待機になる場合があります。

■基本となるのは社内対策チームの方針(マスク着用に関して)

○社内でのマスクの着脱は個人の意思を尊重します。ただし、個人ごとの状況、業務中の以下の場面ではマスクの着用を原則とします。

- ・自身に咳、喉痛、鼻水などの風邪症状があるとき(発熱の場合は入社禁止)。
- ・同居の家族に風邪症状があるとき。
- ・医療機関での取材、収録時。
- ・高齢者施設、高齢屋の割合が高い集団、集会などへの訪問、取材、収録時。
- ・マスク着用のルールが定められている会社、団体、施設等への訪問、取材、収録時
- ・電車等の通勤ラッシュの環境に近い混雑状態での取材、収録時。
- ・十分な換気が確保できない狭い場所での業務の場合。

○放送中、収録中のスタジオ、サブ、ロケ、中継先、並びにメイク室、ロケなどでの移動車両内では番組責任者などの判断でマスク着用を求める場合がある。

一般の職場等であっても、人数や環境によっては所属長などの判断でマスク着用を求める場合がある。ただし、マスク着用の理由を対象者に十分に説明し、理解を得ることとする。

■さらに…東京都の呼びかけ(3/13～5/7)では

○換気、3密の回避、手洗い、手指消毒等の基本的感染防止対策は引き続き励行

○症状がある方、新型コロナ検査陽性の方、同居家族に陽性者がいる方は、周囲に感染を拡げないため、外出を控える。通院等やむを得ず外出する時には、人混みを避け、マスクを着用する。

それらを踏まえて、以下のガイドラインを策定しています。

1. 感染拡大防止体制及び報告事項について

万が一、感染者が出た場合、【濃厚接触者疑い】を迅速に把握するために、下記の報告体制を構築して下さい。

■番組ごとに、【コロナ感染対策責任者(テレビ朝日所属プロデューサー)】を設置

すべてのセクションにおいて徹底した安全対策を統括するため、テレビ朝日所属のプロデューサーによるコロナ感染対策責任者を番組ごとに置きます。

■コロナ感染対策担当(各現場部門のチーフ)の設置と連絡体制の構築

制作・演出部、俳優部、ポスプロ担当など→制作 P

美術部、衣装メイク→美術 P

撮影部→技術 P

照明部→技術 P

音声部→技術 P

↓

テレビ朝日 P(コロナ感染対策責任者)

↓

GP

↓

ストーリー制作部長・統括担当部長

など、各作品の制作体制に応じ、スタッフ全員を網羅する形で、コロナ感染対策担当を設置し、連絡体制を構築してください。

コロナ感染対策担当者は各スタッフの健康状態に目を配り、少しでも気になった点があれば、すぐに、コロナ感染対策責任者に連絡して下さい。

各スタッフについては、基本【自己申告】をベースに、コロナ感染対策責任者が申告を受けた場合は速やかに連絡をお願い致します。

◇自己申告すべき項目

・37.5℃以上もしくは体調不良を感じた場合(同居者も含む)

・5日前から現在までの「体調異常」「病院への受診」

1日だけの収録参加など、スポット参加するキャスト・スタッフについても、

【最後の現場稼働日から2日以内に体調を崩し、特に PCR を受けることになった場合は必ず報告を入れる】

よう、番組統括P(コロナ感染対策責任者)より事前に説明を入れることを徹底してください。

ストーリー作品はレギュラースタッフやポイント参加スタッフを含め、作品に関わる人員が非常に多いです。各部門のコロナ感染対策担当の皆さんの日々の目配りと抜けのない報告こそが、撮影を安全に継続、作品を守るための生命線です。

■体調に少しでも異変を感じたら、責任感より休む勇気を

どれだけ重要なシーンの撮影が待っていても、どれだけ責任のある仕事が残っていても、必ず「コロナ感染対策担当」もしくは「コロナ感染対策責任者」に正直に報告をして下さい。

報告する勇気を持つことが、その後の作品を守ることになり、周囲のスタッフの安全を確保します。

体調不良を報告することが、気まずいことや後ろめたいことでは決してあってはなりません。

逆に、体調不良の事実を正確に伝えなかったことが、そこから先の作品の撮影継続に取り返しのつかない影響を与えることがあります。

スタッフ一同、皆支えながら作品制作に当たっていただければと思います。

新しい作品を制作する場合、下記の準備をお願いいたします。

- ① コロナ感染対策担当の選定と報告ラインの構築。(シリーズ物も都度確認してください)
- ② (各セクションにおいて)万が一、体調不良が出た場合、その代替となるスタッフ、もしくは兼任できるスタッフの目処

2. 撮影・制作にあたっての方針

前項の前提のもと、ストーリー系作品の制作にあたって、制作・美術・技術などの各スタッフ、出演者の安全確保を最優先とするために、以下の方針とします。また、このガイドラインは全ての出演者及びスタッフが順守してください。

<撮影にあたっての方針>

■安全を第一優先に、感染拡大を起こさないための撮影を行う

安全を犠牲にして制作スケジュールや都合を優先することはありません。

ストーリー系作品の撮影では、俳優部同士の「役柄上の密接」は避けられません。そのリスクを認識しながらできる限りの安全対策を実施し、それ以外の準備や待機においては可能な範囲での「リモート化」をお願いします。

■一般視聴者からの目を常に意識した撮影を行う

ストーリー系作品の撮影は、最少人数の撮影部隊であっても、また、屋外ロケ、室内ロケに関わらず、準備・撮影に際して非常に目立ちます。一般視聴者の方々(および、ロケ先の方々)には様々な考えの方がいらっしゃる、少しでも不安を抱かれるようなことが見受けられた場合は、撮影を中断せざるを得ない状況になりえます。

特にテレビ番組の制作においては、すぐに SNS などでも広まってしまったり、週刊誌の標的にもなりやすく、少しでも安全性や近隣への配慮が損なわれた撮影を行った場合、社会的な責任を問われる事態になります。

一般視聴者からの視線を常に意識し、安全性や近隣への配慮が欠けているという誤解を受けないような撮影を、スタッフ一同心がけて下さい。

■感染防止の基本、「3つの密」を避けた撮影を徹底的に行う

①「密集」防止

→制作に関わる全てのプロセスにおいて「リモートに出来ないか」を考える。難しい場合は常に必要最小人数で行う。

②「密閉」防止

→必要最短時間での撮影…原則として集合から解散まで「12 時間以内」の撮影を励行する。

→換気の徹底…スタジオやロケセットでの撮影時は、最長 2 時間ごとに換気を行う。

③「密接」防止

→収録での待機場所や打ち合わせ場所は、密接を避けられる場所を確保する。

を前提ルールとし、コロナ感染対策責任者の下、全員の「安心」と最大限の「安全」を前提とした撮影を行って下さい。

4. 制作の各プロセスにおける基本ルール

制作にあたり、いかなる段階に置いても、各スタッフ・キャストは必ず、下記のことを心がけ、遵守して下さい。

① 手洗い・アルコール消毒の励行

作業の開始前、終了後には特に念入りに手洗いを行うこと。撮影現場、およびスタッフルーム・仕上げスタジオなどに入る際は、全員が用意されたアルコール消毒液で必ず手指の消毒を行うこと。

② マスク着用は個人判断

▼屋外・屋内に限らずマスクの着用は個人の判断を尊重することになります。

「マスクをする」のも「マスクをしない」のも基本は個人の判断です。

※ただし、感染対策上必要だと判断した場合、

統括担当部長あるいはコロナ感染対策責任者によってマスク着用をお願いすることがあります。

「マスク着用」をお願いする場合は、理由を対象者に十分に説明し、理解を得ること。

③ 大声を控える

普段の会話はもちろんのこと、撮影中もスタッフは飛沫が飛ぶような大声は控える

④ 換気の徹底

会議室、スタッフルーム、楽屋のドアは閉めない。できれば2か所開放し空気の流れを作る。

スタジオなど現場もこまめに換気(最長2時間毎に換気)

社内スタジオ以外で室内ロケ・収録を行う場合には、ロケ先、収録現場の換気状態を必ず確認する。

換気状態が悪い場合には、30分に1度以上、定期的にドアや窓を開けて換気する。

⑤ 現場での密集を避ける

演技時の俳優部を除き、あらゆる場面で密集を避けることをすべてのスタッフが意識してください。カメラ打ち、監督ベースも同様。

道具等の手渡しは可能な限り避ける。メイク中、ピンマイク装着中は会話をしないで下さい。

⑥ 全ての打ち合わせ・撮影を最小人数・最小時間に留める

撮影時間だけでなく、現場で行う各打ち合わせも最小人数・最小時間を心がける

⑦ 移動時の密接・密閉を避ける

バス、機材車、照明車、美術車利用時は十分な間隔をとって着席。ロケバス等の移動中の飲食については個人の判断に任せます。下記「食事中の注意点」項を参照ください。

窓は複数個所で10センチ程度開け空気の流れを作り、エアコンによる換気のみには頼らないようにして下さい。

⑧ 食事中の注意点

これまで「個食」「黙食」をお願いしていましたが、個人の判断を尊重することとします。

ただし、新型コロナ感染者と食事をすると感染リスクが高い…ということは変わりません。

※5/7までは、感染者と食事を共にした人は「濃厚接触者扱い」になり自宅待機になる可能性があります。

それを踏まえて、判断をお願いします。

⑨ リモートの活用

ホン打ち、美打ち、編集の確認など可能な限りリモートを活用し、対面で行う場合にも密集を避け、最少人数にする。

<撮影前諸準備段階>

■脚本打ち合わせ

- 原則リモートにて行う。
- 実際に会って打ち合わせが必要な場合密集が避けられる部屋、かつ常に換気が行える場所で行う。
- 現状の厳しい環境を鑑み、出来る限り3密を避けるよう脚本家と打合せし、内容の変更にも柔軟に対応する。

■衣装合わせ

- 最少人数で実施する。出演者は必ず1名ずつ衣装合わせを行い、原則、プロデューサー、監督、衣装部、メイク部、持ち道具、助監督、AP、各1名のメンバーで、なるべく広いスペースを確保したうえで行う。
- 俳優部が衣装を着る前の衣装は全て消毒を実施。衣装合わせ後は一度でも袖を通したモノについては消毒を行い、保管する。
- 衣装部は状況に応じて使い捨て手袋を着用し作業を行う。

■ロケハン

- その場所で、マスク着用のルールがないか事前に確認し、指示がある場合は従う。
- ロケハンに出る場合は、移動時など、制作のプロセスにおける基本ルールを厳守し、少人数で短時間で行うこととする。リモートで行える場合はそちらを優先する。

■美術打ち合わせ

- 美術打ち合わせは、原則リモートで行う。
- 対面での打ち合わせが必要な際は、リモート参加スタッフも併用し、ソーシャルディスタンスのとれる広いスペースを確保したうえで手短に行う。

■建て込み

- 建て込みに関しては、美術Pがスケジュールを調整のもと、密接を避けた形を徹底する。

■スケジュール作成

- 原則、一日の総撮影時間は「12時間以内」を目安として、スケジュールリングを行う。

<スタジオ・ロケ撮影共通>

- 原則、1日の総撮影時間は「12 時間以内」を目安とする。
- エキストラに関しては、一般公募は行わず、エキストラ会社への発注とする。スタッフや他キャストと同様の報告事項を必ず遵守し、密集を引き起こすことのない招集人数とする。
- 待機場所については、キャスト・スタッフの密集を避けられる場所を確保する。
- 休憩中も、ソーシャルディスタンスを保った上で、必要以上の会話は控える。
- 差し入れは原則として個別包装のもののみとする。
- お茶セットには必ず使い捨てコップを完備して使用。脇に消毒液を完備し、給仕の際は消毒を徹底する。

<スタジオ撮影のルール>

■撮影規模

- 原則、撮影カメラは、最大 3 台までとし、それに応じたスタッフ構成とする。無人カメラの使用は可能。スタジオ内では各スタッフのソーシャルディスタンスが確保できることが前提となる。

■サブ

- 原則、監督、記録、照明、音声、VE、各1名とし、ソーシャルディスタンスを確保した配置・着席とする。

■技術

- 前述の通り、撮影カメラは最大3台、音声、照明、VE など最少人数のスタッフ構成で撮影を行う。撮影前、撮影後は全ての機材に関して(新しい使い捨て手袋を装着した上で)消毒作業を行う。
- ワイヤレスマイクの使い回しはせず、同一機材は同一人物で利用する。別の出演者に利用の場合は必ず消毒作業を行ってから使用すること。

■美術

- 美術スタッフ・メイク・衣装・持道具に関しては必要最小限の人数で対応する。
- メイク部は俳優部と接するときも会話は控える。スタッフ・キャストのマスク着用は個人判断となりますが、メイク部については、非常に距離の近い対面作業を行うため、マスクの装着をお願いします。撮影中の直しに関しても短時間の作業を意識。メイク前・後に手指の消毒を徹底し、状況に応じて使い捨て手袋を使用する。
- 同時にメイクをする俳優部がいる場合は、必ずソーシャルディスタンスを保った準備場所をレイアウトする。
- メイク道具などは厳重に管理し、必要とあれば俳優部ごとに分けて管理を行う。
- 衣装に関しては状況に応じて使い捨て手袋を装着した上で作業を行うが、俳優部自らの着替えが可能であればできる限り対応してもらおう。直し作業に関しても、俳優部自ら直してもらえる場合は、離れた場所からの指示を行う。
- 使用後の衣装や持道具に関しては消毒を行い、感染しないように保管する。

■ドライ・段取り・割り打ち

- ドライ立ち合いスタッフは監督、助監督、カメラ、照明、記録、音声、美術、各1名を目安に最少人数で対応する。
- ドライ後の割り打ちについても最少人数で、参加者の密集が避けられる広いスペースを必ず確保した上で行う。

■テスト

- 「テスト」の掛け声などは、大声を出さず、スタッフにはインカムにて、出演者にはジェスチャーや近くのスタッフの掛け声で伝える。

■本番時

- 衣装・メイクが上記通り最小限の直しを行い、速やかに本番を撮影する。
- 「本番」の掛け声などは、大声を出さず、スタッフにはインカムにて、出演者にはジェスチャーや近くのスタッフの掛け声で伝える。

■チェック

- 原則、監督、助監督、カメラ、照明、記録、音声、美術がチェックする。チェック時の密集を避けられるよう、人数に

合わせたモニターを設置する。

<ロケ撮影のルール>

- その場所で、マスク着用のルールがないか事前に確認し、指示がある場合は従う
- 原則、屋内ロケに関しては、貸し切りが可能な場所かつ十分な待機場所が確保できる場所とする。
- 原則、屋外ロケに関しては、人通りが多い公道などは避け、人目につかない広い場所、及び、十分な待機場所が確保できる場所とする。
ロケ先への移動においては、ロケバス内では密な状況を作らないことを意識する。
窓は複数箇所です10センチ程度開け空気の流れを作り、エアコンによる換気のみには頼らない。
- 撮影地域の流行状況なども勘案してロケ場所の選定を行う。事前に社内に情報共有し、迷った場合は総合編成部に相談する。
- 前述の通り、最少人数の撮影部隊であっても、準備・撮影に際して非常に目立ちます。繰り返しになりますが、一般視聴者からの視線を常に意識し、決して無理の無い撮影を行う、ということスタッフ一同心がけて下さい

■撮影規模

- 原則、撮影カメラは、最大2台までとし、それに応じたスタッフ構成とします。無人カメラの使用は可能。屋内ロケでは各スタッフのソーシャルディスタンスが確保できる場所であることが前提
-

■技術・美術

- 技術に関しては最大2台までの撮影カメラ規模に応じたスタッフ構成とし、原則、前項の「スタジオ撮影のルール」に従います。
- 美術・メイク・衣装・持道具に関しても、原則、前項の「スタジオ撮影のルール」に従う

■支度場所・待機場所

- 原則、支度場所はスタジオ撮影と同様に、ソーシャルディスタンスが取れた場所を確保しレイアウトする。
- ロケバス内での支度の際は、1度につき出演者1名の利用とする。
- 待機場所に関しても、「スタジオ撮影のルール」と同様、スタッフ・出演者・エキストラがソーシャルディスタンスを取れる、十分なスペースを確保した場所にする。

■監督ベース

- 監督ベースには、監督、プロデューサー、記録、照明、音声、VE の各1名とする。
- 各々ソーシャルディスタンスを確保した配置にする。(監督ベースのスタッフ間での感染ケースが多くみられます)

※上記以外のプロセスに関しては、基本的に「スタジオ撮影のルール」に従う

<仕上げ作業時のルール>

- ▼各ポストプロダクションが定めるルールの順守をお願いします。
- ▼少人数で行うこと。その作業に必要なスタッフは編集室に入らない。

仕上げ作業は換気の効きづらい編集室で行うため、特に注意が必要です。

編集の合間の食事については個人の判断に任せるとはしますが、5/7 までは、感染者と食事を共にした人は「濃厚接触者扱い」になり自宅待機になる可能性があります。

それを踏まえた適切な判断をお願いします。